

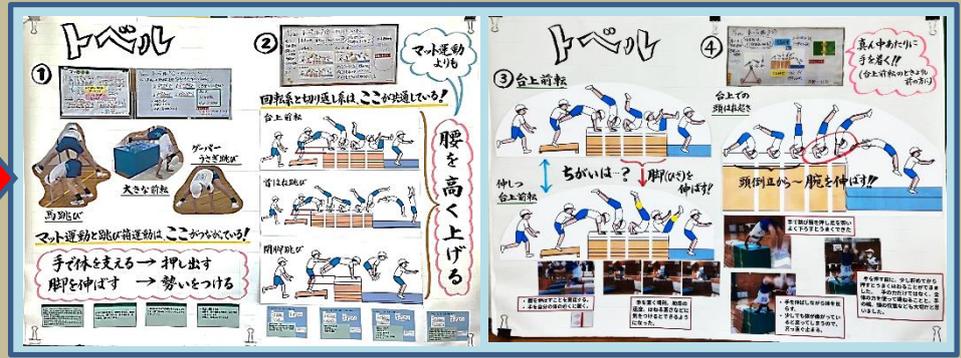
学年	教科等	単元名	日時
第6学年	体育科	トベル(跳び箱運動)	令和5年1月20日(金)6校時

「トベル(跳び箱運動)」は、マット運動での学びを生かし、共通点や相違点等の既習とのつながりを意識させながら、仲間と協動的に課題を解決できるような単元指導計画で行った。

マット運動

学びの履歴

跳び箱運動



○ 子どもの姿からの報告

学習課題をつかむ

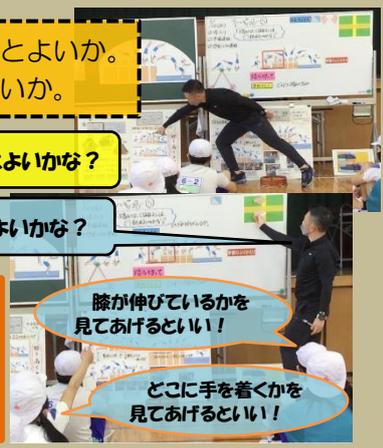
運動に多様にかかわるための学びの視点の在り方

本時は、「頭はね跳び」において、どのような学びを生かすことができそうかを問い、課題の解決に必要な動きに見通しをもたせ、既習の学びを基に、以下の学びの視点をもつことができるようにした。



もたせたい学びの視点

- 運動者：どのように踏み切るとよいか。
- 観察者：どこに手を着くとよいか。



前回よりも腰を上げないといい!

運動する人は、どんなことを意識するとよいか?

みる・支える人は、どこを見てあげるとよいか?

膝が伸びているかを見てあげるといい!

どこに手を着くかを見てあげるといい!

課題となりそうなところを赤枠で焦点化し、立場ごとに問うたことで、**運動者**については、これまでの学びと関連付けながら、「前時よりも『腰を上げる』」ことの必要性に気付いていた。そのためにはどうするかという点では、教師が言葉を補いながら視点をもたせる形となった。**観察者**については、見通す段階とつなげて、既習を基に、視点をもつことができていた。

自発的なふりかえりを促すための教師の言葉かけの在り方

課題に応じた場や段階を選んで技への挑戦

本時は、既習とのつながりや動きのポイントを基に、「できているところ」「できていないところ」について言葉かけをし、仲間と課題を共有させ、出来具合を評価したり、アドバイスしたりするなど、互いに動きを評価しながら技に挑戦することができるようにした。



言葉とともに動きを行ってみせる

(踏み切った時に膝が曲がっているから)もう少しこんなふうに伸ばすことを意識してやってみよう!



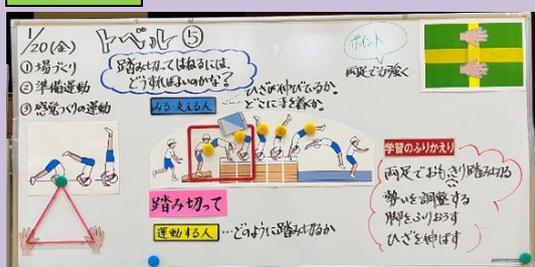
言葉とともに補助をして体感させる

「腰を上げる」ところまではできているよ。この時、背中を伸ばして…」

身振り・手振りや補助、実演を交えて言葉かけをするとともに、同じ場で活動している仲間にも観させる(聞かせる)ことで、課題解決に必要な具体的な動きが分かり、それを基にして互いに出来具合を評価したり、そこを意識した言葉や動作によるアドバイスやサポートをしたりする姿につなげることができた。

○ 考察

本時の板書



踏み切つてはねるには、どうすればよいかな?
両足でおもいきり踏み切ることが大切だと思いました。勢いがついても手や頭をつく位置を勢いをつけなかったときと同じように三角形にすることが大切だと思いました。また、三角形の形で手をつくために勢いの加減も大切だと思いました。

- 課題となりそうな動きを具体的に想像させ、特に重要となることを焦点化し、運動者と観察者の立場ごとに、教師が丁寧に問うことで、既習を基にした学びの視点をもたせることができる。
- 協動的な学びのなかで、子どもが自発的なふりかえりを自己のよりよい動きにつなげていくためには、自己の動きを実践する際に、仲間「どこを見てほしいか」等を直接伝えるなどの主体的なかかわりをもてるように、教師が働きかける必要がある。